科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP	学習成果
比較文化論	竹添 敦子	講義	2		2	4	3
授業概要 授業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・日本と西欧諸国の身近な文化現象をとりあげ、その背後にあるものとのとらえ方、考え方の違いを探る。 ・日本と西欧諸国の文化を比較し、その違いから自らの文化を見つめ直す。 ・「当たり前」や「常識」「伝統」とされていることを冷静に分析し、事実や歴史と照合する。 ・毎回講義の最後に短い映像を観て、講義内容を確認する。限られた時間で小レポートを作成し、自分の意見を簡潔にまとめる訓練をする。 						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自らを成り立たせている文化（の背景）を知る。 ・「文化に優劣はない」ことを確認する。 ・比較して見えてきた日本の文化、西欧諸国の文化について、自分なりの考えを導き出す。 						
回	学習内容						
1	オリエンテーション — 文化を比較するとはどういうことか（見える文化、見えない文化）						
2	昔話から文化を探る（日本の昔話 — 『鼠浄土（おむすびころりん）』を考える）						
3	昔話から文化を探る（西欧の昔話 — 『ヘンゼルとグレーテル』を考える）						
4	文化の特徴（ふたつの昔話を比較し、発見した現象からそれぞれの「文化」を探る）						
5	日本の視線（色彩の文化 — 和菓子の「色彩」を考える）						
6	西欧の視線（形の文化 — 西欧の菓子の「形」を考える）						
7	日本の視線（陰影の意味 — 日本における「気配」「陰」「影」「闇」の位置づけ）						
8	西欧の視線（光の意味 — 西欧における「日光」「窓」「灯り」の位置づけ）						
9	日本の境界（「曖昧」「引き算の美」を考える）						
10	西欧の境界（「明確」「厳格」「足し算の美」を考える）						
11	日本の姿勢（「座」の美学、「座」の文化を考える）						
12	西欧の姿勢（「立」の美学、「立」の文化を考える）						
13	日本の道具（「包む」文化、「引く」文化、「肩」の文化を考える）						
14	西欧の道具（「入れる」文化、「押す」文化、「腕」の文化を考える）						
15	試験 終了後、まとめ（改めて文化を比較し、自らを成り立たせている文化を考える）						
予習内容 復習内容	予習：シラバスに基づく具体例を考えておく。 復習：講義で発見したことがらを記録し、参考文献を読み込む。						
教科書	テキストは使用しない。毎回レジュメ（1枚）を配付する。参考文献については講義中に提示						
成績評価	毎回提出する小レポート（50%）と最終回の試験（50%）の合計で評価する。 5回を超えて欠席した場合、評価の対象外（最終回の受験資格を失う）。						
実務経験							
その他 特記事項	言語は文化を知るための基本である。外国語授業での「気づき」を大切にしたい。						